2020年度 岐阜県学生ゴルフ選手権競技
兼 2020年度 岐阜県高等学校ゴルフ選手権 秋季大会

岐阜県学生ゴルフ連盟
岐阜県高等学校ゴルフ連盟
競 技 委 員 会

本競技はR & A U S G A発行のゴルフ規則（2019年1月施行）と下記のローカルルールを適用する。ローカルルールの修正や追加については各競技の競技規定やプレーヤーへの注意事項、および各会場の公式掲示板で確認すること。別途規定されている場合を除き、ローカルルールの違反の罰は：一般の罰

ローカルルール

1. アウトオブバウンズ（規則18.2）

- (a) アウトオブバウンズは白杭の柱のコース側を地表レベルで結んだ線によって定められる。
- (b) アウトオブバウンズに止まったり、そのアウトオブバウンズを超えて止まった球は、他のホールではインバウンズとなるコースの別の部分に止まったとしてもアウトオブバウンズである。

2. ペナルティーエリア（規則17）

レッドペナルティーエリアは、赤杭または赤線をもってその限界を標示する。

線と杭が併用されている場合は、線がその限界を標示する。

- (a) ペナルティーエリアがアウトオブバウンズの境界に隣接している場合、そのペナルティーエリアの縁はその境界まで及び、その境界と一致する。
- (b) プレーヤーの球がペナルティーエリアにある場合（たとえ球が見つかっていなくても、ペナルティーエリアにあることが分かっている、または事実上確実である場合を含む）、そのプレーヤーは規則17.1dに基づく選択肢の一つを使って救済を受けることができる。
あるいは、その球がレッドペナルティーエリアの縁を最後に横切った場合、追加の選択肢として、1罰打を加え、そのプレーヤーは元の球か別の球をそのペナルティーエリアの反対側にドロップすることができる。
 - ・ 基点：そのペナルティーエリアの反対側の縁の上を推定した地点（ホールまでの距離は元の球がそのレッドペナルティーエリアの縁を最後に横切った地点からホールまでの距離と同じ）。
 - ・ 基点から計測する救済エリアのサイズ：2クラブレングス。しかし次の制限がある。
 - ≫ 基点よりホールに近づいてはならない。そして
 - ≫ 同じペナルティーエリア以外であれば、どのコースエリアでもよい。しかし、
 - ≫ 基点から2クラブレングス以内にコースエリアが複数ある場合、球はその救済エリアにドロップしたときに最初に触れたのと同じコースエリアの救済エリアに止まらなければならない。

3. 異常なコース状態（動かさない障害物を含む）（規則 16）

(a) 修理地

- (1) 白線で囲まれ青杭で表示してある区域。
- (2) プレーヤーの球が張芝の継ぎ目にあるか、触れている場合、あるいは継ぎ目がプレーヤーの意図するスイングの区域の障害となっている場合
 - (i) ジェネラルエリアの球：
そのプレーヤーは規則 16. 1b に基づいて救済を受けることができる。
 - (ii) パッティンググリーン上の球：
そのプレーヤーは規則 16. 1d に基づいて救済を受けることができる。
しかし、その継ぎ目がプレーヤーのスタンスにだけ障害となっている場合、障害は存在しない。救済を受けるときは、張芝の区域の中のすべての継ぎ目は同じ継ぎ目として扱われる。そのことは、球をドロップした後にどの継ぎ目であってもプレーヤーの障害となる場合、たとえその球が基点から 1 クラブレングス以内にある場合でも、そのプレーヤーは規則 14. 3c(2) に基づいて要求されるように処置しなければならないこと（再ドロップ）を意味している。
- (3) パッティンググリーン上やフェアウェイの長さかそれ以下に刈ったジェネラルエリアの部分にあるヤーデージ用にペイントされた線や点は修理地として扱われ、規則 16. 1 に基づく救済を受けることができる。しかし、ペイントの線や点がプレーヤーのスタンスにだけ障害となっている場合、障害は存在しない。

(b) 動かさない障害物

- (1) 白線の区域と動かさない障害物が繋がれている場合、ひとつの異常なコース状態として扱われる。
- (2) 動かさない障害物で囲まれている庭園区域とその中で生長しているすべてのものは、ひとつの異常なコース状態として扱われる。
- (3) コース内にある排水路はジェネラルエリアの動かさない障害物として扱われ、ペナルティーエリアではない。
- (4) 人工の表面を持つ道路に隣接している U 字排水溝および枕木はその道路の一部として扱う。

(c) 2 本の軌道

電磁誘導カート用の 2 本の人工の表面を持つ軌道は、全幅をもってカート道路とみなす。球がこのカート道路の上にある場合、プレーヤーは規則 16. 1a に基づく救済を受けなければならない。

4. 不可分な物

次のものは不可分な物であり、罰なしの救済は認められない。

- (a) 樹木や他の常設物に密着させてあるワイヤー、ケーブル、巻物、その他の物
- (b) ペナルティーエリア内にある人工的な護岸やパイリング（枕木等の構築物）。

5. 後方線上の救済を受けて、救済エリアの外からプレーした球 E-12

後方線上の救済を受ける場合、プレーヤーが関連する規則（規則 16. 1c(2), 17. 1d(2), 19. 2b, 19. 3b）

が要求する救済エリア内にドロップしたが、その救済エリアの外に止まった球をプレーした場合、その球をドロップしたときに最初に地面に触れた個所から1クラブレングス以内にその球が止まっているのであれば、追加の罰はない。この罰の免除は、球が基点よりホールに近い所からプレーされていたとしても、元の球の箇所や、球がペナルティーエリアの縁を最後に横切ったと推定した地点よりホールに近づいてプレーしていなければ適用する。

6. 壊れた、または著しく損傷したクラブの取り替えについてのローカルルール G-9

規則 4.1b(3)は次のように修正される：プレーヤーのクラブを乱暴に扱った以外のケースでラウンド中（プレーの中断中を含む）にそのプレーヤーやキャディーによって「壊れた、または著しく損傷した」場合、そのプレーヤーは規則 4.1b(4)に基づいてクラブを別のクラブに取り替えることができる。クラブを取り替える場合、そのプレーヤーは壊れた、または著しく損傷したクラブを規則 4.1c(1)の処置を使用して、すぐにプレーから除外しなければならない。このローカルルールの違反に対する罰—規則 4.1b 参照

7. クラブと球の規格

- (a) 適合ドライバーヘッドリストを適用する。

プレーヤーが行うために使うドライバーはR&Aが発行する最新の適合ドライバーヘッドリストに掲載しているクラブヘッド（モデルとロフトで識別される）を持つものでなければならない。

このローカルルールに違反したクラブでストロークを行ったことに対する罰：失格

例外：1999年より前に製造されたクラブヘッドを持つドライバーはこのローカルルールから免除される。

- (b) ストロークを行うとき、プレーヤーは2010年1月1日に施行された用具規制の溝とパンチマークの仕様に適合するクラブを使わなければならない。

このローカルルールに違反したクラブでストロークを行ったことに対する罰：失格

（小学生大会、ねんりんピック予選、アンダーハンディ、振興基金の各大会には適用しない）

- (c) 適合球リストを適用する。

ストロークを行うときに使用する球はR&Aが発行する最新の適合球リストに掲載されていなければならない。

このローカルルールに違反した球でストロークを行ったことに対する罰：失格

8. 険悪な気象状況によるプレーの中断（規則 5.7）

危険な状況のためにプレーの中断、または通常の間断はジェットホーンおよびカートに搭載の無線によって伝えられる。

どちらの場合も、プレーの再開はジェットホーンおよびカートに搭載の無線によって伝えられる。

次の信号がプレーの中断と再開に使われる。

差し迫った危険のための即時中断：1回の長いジェットホーン

危険な状態ではない中断：3回の連続する短いジェットホーン

プレーの再開：2回の連続する短いジェットホーン

注：危険な状況のためにプレーを即時中断する場合、すべての練習区域は委員会がプレーを再開するまで閉鎖される。閉鎖された練習場で練習するプレーヤーには練習を止めるように勧告し、それでも練習を止めない場合には失格となることがある。

9. 練習（規則 5.2）

- (a) 終了したばかりのパッティンググリーン上やその近くで練習することを禁止する
規則 5.5b は次のように修正される：2つのホール間のプレーの間プレーヤーは次のことをしてはならない。
- ・ 終了したばかりのパッティンググリーンやその近くで練習ストロークを行う。または、終了したばかりのパッティンググリーンの表面をこすったり、球を転がすことでパッティンググリーン面をテストする。

10. キャディー

規則 10.3a は次のように修正される：プレーヤーはラウンド中にキャディーを使用してはならない。

注：9番ホールから10番ホールへ向かう間、または18番ホールから1番ホールへ向かう間のカート道路において、その交差する箇所については、補助要員がカートを操作することを認める。

11. 参加資格

プレーヤーは各競技の「競技規定」に定められる参加資格の条件を満たしていなければならない。

12. スコアカードの提出（規則 3.3b）

プレーヤーのスコアカードは、プレーヤーの両足が所定のスコアリングエリアから出た時点で委員会に提出されたことになる。スコアカードを提出する前にスコアリングエリアを離れる必要のあるプレーヤーはスコアリングオフィシャルにその意思を告げなければならない、そしてすぐに戻らなければならない。

13. タイの決定

タイの決定方法は該当する競技規定に定めるか、委員会によって会場で公表される。

14. 競技終了時点

競技委員長の成績発表をもって終了する。

15. 競技の成立

競技者全員が規定のラウンドをホールアウトできなかった場合、委員会は競技成立について別途協議（再開、予備日など）するものとする。

16. 委員会の裁定

委員会はローカルルールを修正する権限を有し、すべての事柄について、この委員会の裁定は最終である。

注意事項

1. ローカルルールに追加変更のある場合は、掲示板・スタートホールのティーイングエリア付近に告示する。
2. 委員会は競技中を含めいつでも、出場に相応しくないと判断したプレイヤーの参加資格を取り消すことができる。
3. プレーヤーまたはその関係者（保護者等を含む）にエチケット違反、または非行があった場合には本競技行動規範により制裁を受けることがある。また、重大な非行があった場合には規則 1. 2 a に基づいて失格とする場合がある。
4. 練習は指定練習場で行い、打撃練習場では備え付けの球を使用すること。
スタート前の練習は1人1コイン（30球）を限度とする。
※打球練習場はアイアンのみ使用を認める。
5. ティーマークの色は、男子の部：青色 女子の部：白色 する。
6. 9ホール終了後、プレーを遅らせなければクラブハウスに立ち入ることができる。
7. 会場クラブの服装規定並びに中学生および高校生は、別紙「ユニフォーム規定」を順守すること。服装規定に違反がある場合、競技委員会は競技者の参加資格を取り消すことができる。
8. 緊急時以外、コース内での携帯電話の使用は禁止する。
9. 保護者およびギャラリーの観戦は、禁止とする。
1番スタート・10番スタート付近、および9番ホール・18番ホールパッティンググリーン周辺含め、すべて禁止とする。会場クラブは駐車場と乗用カート置場が隣接する地形となっているが、乗用カート置場付近を境に会場クラブによって立ち入りを規制する目印を設置するので、それよりコース側への立ち入りは一切禁止とする。
10. バックは口径9.5インチ、重量は13キロを超えないようにすること。
サブバッグの使用は禁止する。
11. 指定練習日は「競技規定」に定める。

ご案内

1. 病気または他の事情で参加を取り止める場合は必ず事前に連絡すること。
2. 競技当日、昼食は必要に応じて各自ご準備ください。
3. 競技当日の受付は、自身のスタート時刻30分前までに済ませること。
開会式は実施しない。

ユニフォーム規定

制 定 平成 5年4月24日

施 行 平成 7年4月 1日

最新改定 平成30年12月1日

最新施行 平成31年4月 1日

学生らしく、清潔、端正で若々しく、ゴルフをするのにふさわしい服装であること。
また、下記規定及び確認事項に抵触しそうなものは避け、シンプルなものを心がけること。

ユニフォームとは、シャツ（インナーも含む）・ズボン・帽子・防寒着を指し、学校単位で統一したものをいう。それには学校名を表記すること。（表記方法・場所は別紙、確認事項を参照）

(1) シャツ

襟付き、袖有とする。（冬季時のタートルネック可）

着丈の短いシャツは避け、裾はズボン等の中に入れること。

インナーを着用する場合には、学校単位で色を揃えること。（チーム全員が着用する必要はない）

(2) ズボン

色は単色（ベルト通し、ポケット含む）とし、ステッチの色違いは認めるがラインは禁止とする。
女子はスカート・ハーフパンツの着用は認めるが、膝上丈10cm以内とする。また、7分丈のパンツ着用は不可。

男子において、ハーフパンツの着用を認める。尚、ハーフパンツは膝上丈までとし、長過ぎたり短過ぎるものは不可。

(3) ベルト

単色・無地とし、蛍光色は不可とする。

ラインステッチの色違いは認めるが、それによる大きな図柄模様は不可とする。

(4) 防寒着

フード付きパーカーは禁止とする。

※ユニフォーム規定及び確認事項において、判断のできないものは、各地区連盟に連絡し判断を求めること。

※以上の規則（規定等に関する確認事項も含む）違反については、競技委員会の指示に従うこと。

従わない場合には、当該競技への出場を原則として認めない。

※大会の開催コースのドレスコードは、本連盟のユニフォーム規定より優先する場合がある。

ユニフォーム規定等に関する確認事項

制 定 平成 5年4月24日

施 行 平成 7年4月 1日

最新改定 平成30年12月1日

最新施行 平成31年4月 1日

大会期間とは、公式練習ラウンド・開会式から閉会式・表彰式までの期間を指す。（自宅から大会会場までの行き帰りを含む）

日本高ゴ連主催、及び後援競技、派遣競技の大会期間は、ユニフォーム規定を遵守すること。

学校（自宅）から大会（式典）会場までの行き帰りについては、制服、若しくはユニフォームとする。

大会期間の練習ラウンドは、ユニフォームを着用すること。

【シャツについて】

*半袖の下に、インナーの着用は認めるが単なる長袖のシャツは認めない。

インナーとは、伸縮性があり、スポーツ性機能が備わっているものをいう。

【ズボン等について】

*カーゴタイプのズボン（切れ込みポケットのあるものも不可）は認めない。

*止め金を使用している場合には大きさを1cm以内とし、他の金属類は禁止とする。

*股下以下の所にポケット類（ティポケットなど）があるものは禁止とする。

*学校単位内での長ズボン・ハーフパンツ・スカート着用の混在を認める。ただし、学校単位で混在する長ズボン・ハーフパンツ・スカートの色は揃えること。

【ベルトについて】

*バックルの大きさは縦5cm、横8cm以内とし、ベルトの装飾金具付は不可とする。

*ベルト穴の補強としての金属は認めるが、それが全面に配されている物は不可。

【帽子について】

*ワークキャップ・ニット帽・ダメージ素材は不可とし、サンバイザーは禁止とする。

【その他】

*学校名の表記方法に関しては、大会申込時に登録した校名（漢字、ローマ字どちらでも良い）を生地には直接刺繍・プリントするか、ワッペン等を使用する際には、刺繍したものを縫い付けること。（マジック書き不可）

記名場所は、帽子は前、またはサイド部分、シャツ・防寒着は胸・袖口のどちらか、ズボン等は後方ポケット、もしくは後方ポケット上方部分とする。（ただし、インナー・ベスト・レインウェアは除く）

*装飾品の着用は禁止する。（健康器具も含む）

*サングラスの使用は、プレー中だけ着用を認める。

*化粧品、及び医薬部外化粧品の使用は禁止する。但し、日焼け止めクリーム・オイル・スプレー、無色のリップクリーム、治療目的で医師より指示されたもの（診断書の提出を求める場合あり）については、使用を認める。

*ネックウォーマーは大会本部が認めた試合については許可する。色・デザイン等が派手にならないようにすること。

*ユニフォームに関しては、ブランドのロゴマーク、またはそれを示す物に関しては縦+横が15cm以内、3か所までとする。（ただし、帽子は除く）

*女子に限り、ユニフォームの一部としてのリボン・シュシュ（同一のもの）の使用を認める。

*メーカーの廃盤、若しくは適応サイズがない場合は、同じようなデザイン・同一色であれば可とする。